

浪岡フードバレイ構想の概要

資料 1

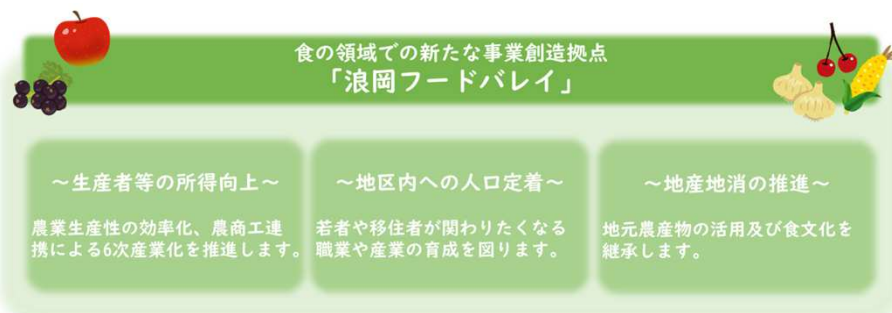
令和 8 年 3 月 24 日
定 例 庁 議
浪 岡 振 興 部

(1) 構想策定の背景/趣旨

本市は農産物や水産資源に恵まれており、特に浪岡地区は全国有数のりんごの産地であるほか、パサラコーン、あおもりカシス、にんにく、さくらんぼといった農産物の栽培が盛んです。

本構想エリアの浪岡地区は、津軽地方の玄関口として交通の要衝となっていることに加え、年間200万人近くが訪れる「道の駅なみおかアップルヒル」のほか、直近では民間による津軽の風土・発酵食文化に触れることのできる体験施設が開設されるなど、農水産物の販路拡大や食文化の発信のための高いポテンシャルを有しています。

このように地域資源に恵まれた浪岡地区を食の領域での新たな事業創造拠点「浪岡フードバレイ」と位置づけ、優れた農産物の生産振興をはじめ、特産品の商品化、ブランド化、販売強化などを通じ、生産者等の所得向上、人口定着、地産地消の推進を目指し、行政・関係団体等が一体となり地域活性化に取り組むこととしたものです。



(2) 地域産業の現状

令和3年における本市全体の就業人口割合、第1次産業0.4%、第2次産業13.6%、第3次産業86.0%に対し、浪岡地区では、第1次産業1.7%、第2次産業21.7%、第3次産業76.6%となっており、第1次産業と第2次産業の割合が高くなっています。

浪岡地区は、第1次産業の中でも特に農業が盛んで、米やりんご、パサラコーン、あおもりカシス、にんにく、さくらんぼなど、気候や風土を活かした多様な農産物が生産されています。

また、第2次産業では、製造業者のうち約4割を食料品加工業が占めており、りんごジュース加工やカシスジャム加工など地域で生産される農産物の高付加価値化に寄与しています。

近年の浪岡地区の動き

- ・意欲のある若手農業者や農業法人等がりんごの高密度植栽を導入することで生産性の向上が図られています。
- ・民間事業者による発酵食品の体験施設が開設されるなど、「食」に対する関心を高める機運が醸成されています。
- ・地域住民が参加できる収穫祭が開催されるなど、農業を軸にした交流の機会づくりが進められています。
- ・ECサイトを通じた農産物や加工品の販売など、従来の流通に頼らず自ら販路を開拓する動きが見られます。



(3) 市民意識調査

令和6年度の食・観光に関する調査結果から、市民の「食」や「観光」に対する意識は高くなっています。

(問) 青森市の観光資源のうち、もっと活かした方が良いと考えるものはどれですか？

- (回答) ①自然・温泉 (74.2%) ④観光施設 (31.4%)
②食 (52.0%) ⑤農業・漁業体験 (28.4%)
③ねぶた祭 (46.1%)

(4) 取組の方向性

①優れた農水産物の生産振興

本市の農水産物は、地域住民の食生活を支える礎であるとともに、観光・交流人口の拡大においても大きな役割を果たす貴重な地域資源です。安定した品質を維持しながら、生産体制を持続させるため、生産性と収益性の両面で成長できる環境づくりを進めます。

②加工品・土産品・地域グルメの開発・高付加価値化

本市が誇る農水産物の魅力を最大限に引き出すため、市場ニーズや観光客の嗜好に応じた加工品・土産品の開発を進めます。また、市産食材を活用した地域グルメの創出や、既存商品のブラッシュアップにより、地域ブランド価値の向上と収益力強化を目指します。

③戦略的販路開拓・販売PR

開発した商品のブランド価値を維持・発信し、ターゲットとなる消費者層に効果的に届けるため、「道の駅なみおかアップルヒル」を拠点とした生産者の想いや地域資源の魅力を体験できる場づくりに加え、地域おこし協力隊とも連携しながら消費者目線に立った情報発信を行います。また、都市圏での販路拡大のため、SNSの活用やトップセールスなどによる販売PRを実施するほか、ECモールなどオンライン市場への展開を推進します。

(5) 推進体制

構想の推進に当たっては、農業団体、商工業団体に加え、金融機関や大学などと市が連携を強化しながら、それぞれが担う役割を積極的に果たしていくことが求められています。

そのため市では、令和7年4月にこれら関係団体で組織する「浪岡フードバレイ推進協議会」を設立し、地域グルメの開発などを実施してまいりました。

今後においては、生産者や事業者の主体的な取組やネットワークを活用したビジネスマッチングなど関係者間の連携強化を中心とした取組など、構想で示した方向性に沿った幅広い情報共有を行うとともに、協議会においては食を通じた持続可能で活力ある地域経済の実現に向けて検討を行い、新たな取組が具体化した際には市及び関係機関がそれぞれの役割を果たしながら取り組んでまいります。



浪岡フードバレイ構想



令和 8 年 3 月

青 森 市

【目 次】

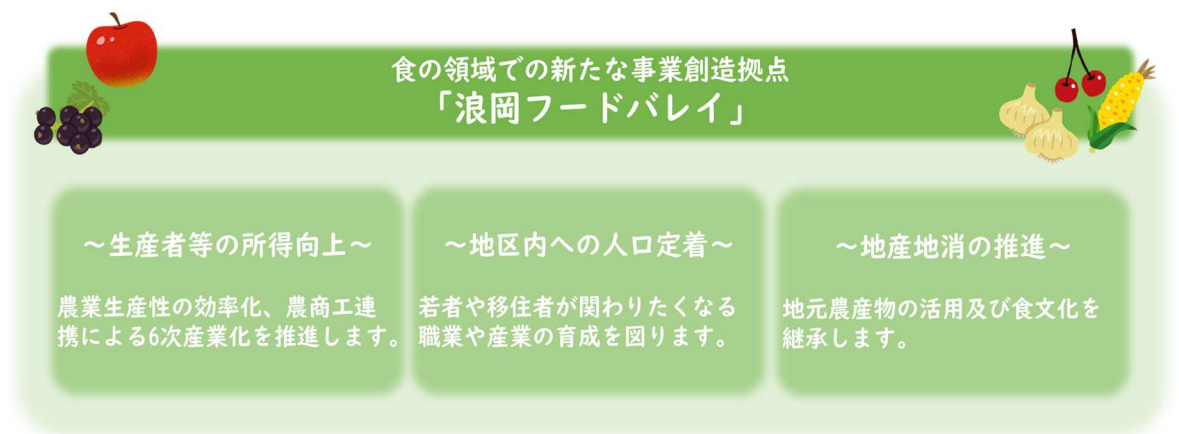
(1) 構想策定の背景／趣旨	1
(2) 地域産業の現状	2
(3) 市民意識調査	6
(4) 取組の方向性	8
(5) 推進体制	12

(1) 構想策定の背景／趣旨

本市は農産物や水産資源に恵まれており、特に浪岡地区は全国有数のりんごの産地であり、慣行栽培のほか、高収益栽培のわい化栽培、近年では農作業の省力化を目的とした高密植栽培及び超高密植栽培の導入が進んでいます。また、バサラコーン、あおもりカシス、にんにく、さくらんぼといった農産物の栽培が盛んです。

本構想エリアの浪岡地区は、津軽地方の玄関口として交通の要衝となっていることに加え、年間 200 万人近くが訪れる「道の駅なみおかアップルヒル」のほか、直近では民間による津軽の風土・発酵食文化に触れることのできる体験施設が開設されるなど、農水産物の販路拡大や食文化の発信のための高いポテンシャルを有しています。

このように地域資源に恵まれた浪岡地区を食の領域での新たな事業創造拠点「浪岡フードバレイ」と位置づけ、優れた農産物の生産振興をはじめ、特産品の商品化、ブランド化、販売強化などを通じ、生産者等の所得向上、人口定着、地産地消の推進を目指し、行政・関係団体等が一体となり地域活性化に取り組むこととしたものです。



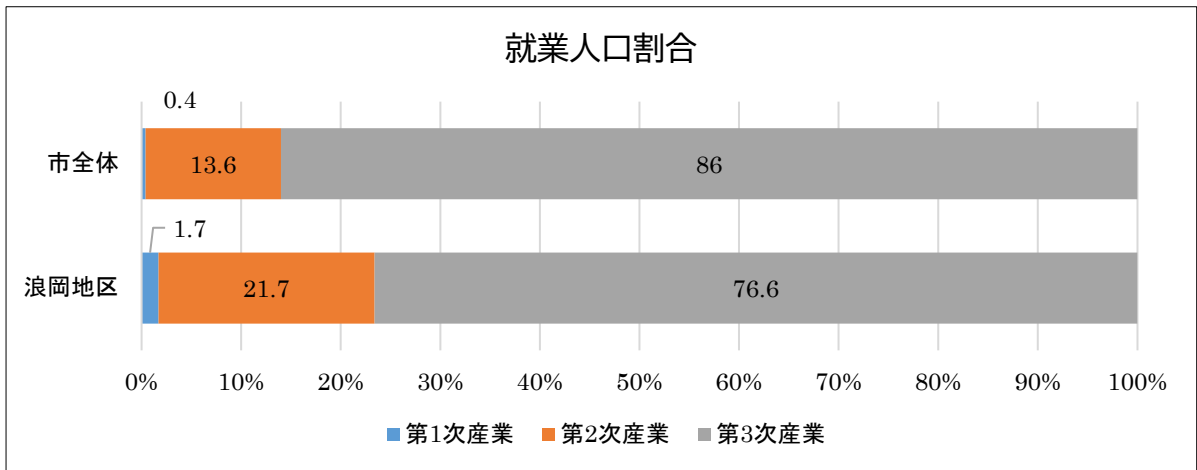
(2) 地域産業の現状

本市の産業構造

令和3年における本市全体の就業人口割合は、第1次産業0.4%、第2次産業13.6%、第3次産業86.0%となっており、浪岡地区では、第1次産業1.7%、第2次産業21.7%、第3次産業76.6%で、市全体と比較し第1次産業と第2次産業の割合が高くなっています。

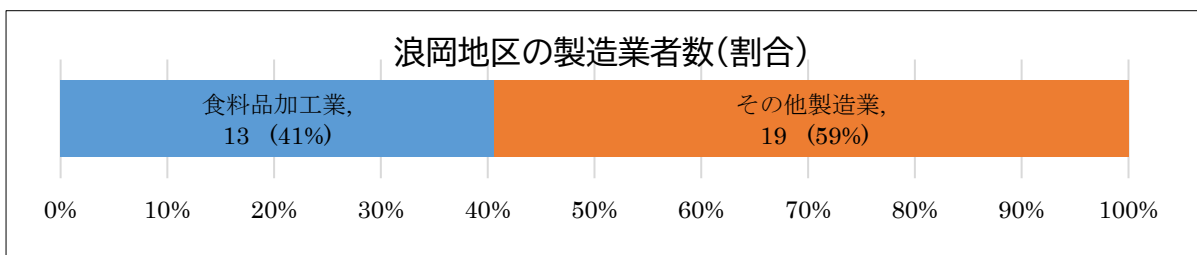
	就業者数 (人)				割合 (%)		
	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
市全体	122,881	443	16,752	105,686	0.4	13.6	86.0
浪岡地区	5,888	101	1,280	4,507	1.7	21.7	76.6

※公務除く



浪岡地区は、第1次産業の中でも特に農業が盛んで、米やりんご、バサラコーン、あおもりカシス、にんにく、さくらんぼなど、気候や風土を活かした多様な農産物が生産されています。

また、第2次産業では、製造業者のうち約4割を食料品加工業が占めており、りんごジュース加工やカシスジャム加工など地域で生産される農産物の高付加価値化に寄与しています。



(出典：令和3年経済センサス活動調査)

本市の農水産業

本市では、冷涼な気候を活かした農林水産業が盛んに行われています。

農業は、青森地区の青森平野及び浪岡地区の津軽平野による稲作が中心であり、夏秋トマト、ピーマン、キュウリ、ネギ、ソバ、バサラコーンなどの栽培も盛んです。

また、丘陵地及び中山間地域では本市特産のりんごのほか、ぶどう、さくらんぼ、桃などの果樹栽培が行われており、りんご産地を支えています。

令和 5 年におけるりんごの農業産出額は、52.3 億円で全国第 7 位となっており、本市は全国有数のりんご産地となっています。

水産業は、陸奥湾沿岸を中心としたホタテ貝養殖産業が盛んであり、ナマコ、ホヤなどの養殖採取に取り組んでいます。

りんごの市町村別農業産出額（令和 5 年）（億円）

順位	県	市町村	農業産出額
1	青森	弘前市	461.8
2	〃	平川市	91.4
3	〃	板柳町	76.9
4	〃	黒石市	68.3
5	長野	長野市	62.1
6	青森	鶴田町	57.2
7	〃	青森市	52.3
8	〃	藤崎町	44.1
9	〃	五所川原市	40.0
10	長野	松本市	39.2

（出典：東北農政局青森県拠点）

浪岡地区の概要

浪岡地区は旧浪岡町として旧青森市西北部に隣接し、平成 17 年 4 月に旧青森市と合併し、新青森市となり、現在の浪岡地区の人口は 16,310 人（R7.12.1 住民基本台帳）となっています。

浪岡地区は、国道 7 号、国道 101 号、東北自動車道、津軽自動車道、JR 奥羽本線があることから、古くから交通の要衝として、地域圏交流が盛んな場所であり、平成 8 年 7 月には国道 7 号沿いに「道の駅なみおかアップルヒル」が県内 10 番目の道の駅として開設されました。

「アップルヒル」は青森と弘前の間に位置する道の駅で、青森空港や東北自動車道浪岡 IC から近く、青森観光の際に立ち寄りのお客さんで賑わっています。

地元的新鲜な野菜やフルーツが豊富に揃っており、お土産を購入するのに便利であることや、観光りんご園も併設され、収穫時期にはりんごのもぎ取り体験も楽しめることから、県内道の駅随一の来客数を誇り、令和 6 年度にはコロナ禍で減少した来客数も回復し、年間 196 万人となっています。

冷涼な気候と肥沃な土壌に恵まれた浪岡地区では、様々な特色ある農産物が育てられています。以下に主な品目を紹介します。

■米

本市の農業算出額の 45.9%を占める米は、収穫量が県内3位とトップクラスになっています。（2024年〈令和6年〉作物統計調査、農林水産省）

品種は浪岡地区の気候や風土にあった「まっしぐら」、「晴天の霹靂」、「はれわたり」が主に栽培されています。

■りんご

主に生産されている品種は「ふじ」。果肉はやや粗めなシャキシャキした食感と果汁が多くジューシーな味わいが特徴です。その他にも、甘味と酸味のバランスが良く、ジュースなどの加工用としても人気の「ジョナゴールド」、香り高く甘さが際立つ「王林」など様々な品種が栽培されています。

りんごの作業は雪が深い時期から始まり、整枝・剪定、摘花・摘果、葉摘み・玉まわしなど様々な工程を経て約1年かけて大切に育てています。

■バサラコーン

バサラコーンは、浪岡地区の農家等で構成される青森農協バサラコーン部会が生産しており、一般的なとうもろこしと比べて2割程重く、果実並みの強い甘みときれいに揃った粒が特徴です。

特徴の強い甘みを生み出すため、作付本数を少なくするなど徹底的な品質管理を行っているほか、化学肥料の低減など、安心・安全な生産にも取り組んでいます。

■あおもりカシス

夏季冷涼な気候に適した「あおもりカシス」は、病害虫の発生が自然に抑えられ、農薬をほとんど使用せずに栽培しています。収穫は、小さな実を傷つけないように一粒ずつ丁寧に手摘みで行っており、その手間を惜しまず大切に収穫している贅沢なフルーツです。

■にんにく

豊かな土壌と恵まれた気候を生かし、土づくりから収穫、保管に至るまで細心の注意を払いながら丹精込めて育てています。その手間と愛情が、香り高く味わい深いにんにくとして実を結んでいます。

■さくらんぼ

市内で最初に収穫される果樹がさくらんぼです。「佐藤錦」「紅秀峰」などが中心に栽培されており、6月下旬になると、農園前などで直売するため、のぼり旗が並ぶ風景が収穫期を伝える風物詩です。

(出典：あおもり産品販売促進協議会 さんびん便、一般社団法人青森県りんご対策協議会公式サイト)

浪岡地区の食文化

浪岡地区では、古くから農村地帯としての食文化が各家庭に根付いており、けの汁や漬物などの発酵食品についても関心が高いです。

地区の農家家庭では、11月頃になると津軽で古くから栽培されている赤カブを使った「千枚漬け」、大根の「たくあん」などが漬けられ、お正月の食卓に並び、その後は毎日の食卓を飾る保存食です。特に赤カブの千枚漬けは津軽地方の郷土料理であり、雪の降る津軽地方の冬の野菜不足を補うおかずとして欠かせないものです。そのほか、酒粕を使用した「粕汁」が食され、家庭の味として受け継がれています。中でも「高菜の粕汁」は津軽料理遺産に認定され、後世に受け継ぎたい津軽の伝統料理とされています。

これら発酵食品について、独自の食文化があり、今後はその漬物等の発酵食品について、調査・確認していく必要があります。

さらに、浪岡地区の工業団地に民間事業者の新工場が移転新築され、令和7年度には新工場が稼働するなど、発酵食品の機運の高まりにも期待しているところです。

(出典：農林水産省 HP、津軽料理遺産 HP)



出典：農林水産省「うちの郷土料理」

近年の浪岡地区の動き

浪岡地区では、農業生産から交流・体験、販路開拓に至るまで、地域資源を活かした多様な取り組みが展開されています。

- 意欲のある若手農業者や農業法人等がりんごの高密度植栽培を導入することで生産性の向上が図られています。
- 民間事業者による発酵食品の体験施設が開設されるなど、「食」に対する関心を高める機運が醸成されています。
- 農業者団体が主催となり地域住民が参加できる収穫祭が開催されるなど、農業を軸にした交流の機会づくりが進められています。
- EC サイトを通じた農産物や加工品の販売など、従来の流通に頼らず自ら販路を開拓する動きが見られます。

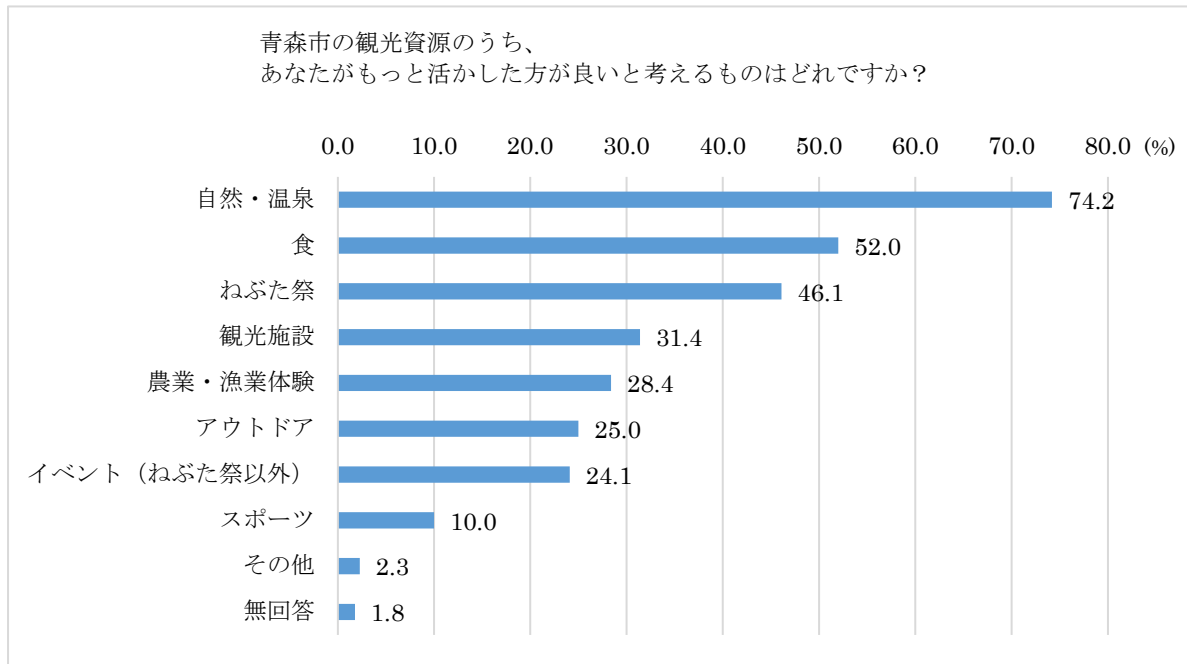
(3) 市民意識調査

令和6年度の食・観光に関する市民意識調査結果から、市民の「食」や「観光」に対する意識は高くなっています。

(問) 青森市の観光資源のうち、もっと活かした方が良いと考えるものはどれですか？

(回答) ①自然・温泉	(74.2%)
②食	(52.0%)
③ねぶた祭	(46.1%)
④観光施設	(31.4%)
⑤農業・漁業体験	(28.4%)
⑥アウトドア	(25.0%)
⑦イベント	(24.1%)
(ねぶた祭以外)	
⑧スポーツ	(10.0%)
⑨その他	(2.3%)
⑩無回答	(1.8%)

※複数回答が可能な設問のため、比率算出の基数は回答者数(票数)とし、その項目を選んだ人が全体からみて何パーセントなのかという見方としているため、各項目の比率を合計しても100とはなりません。

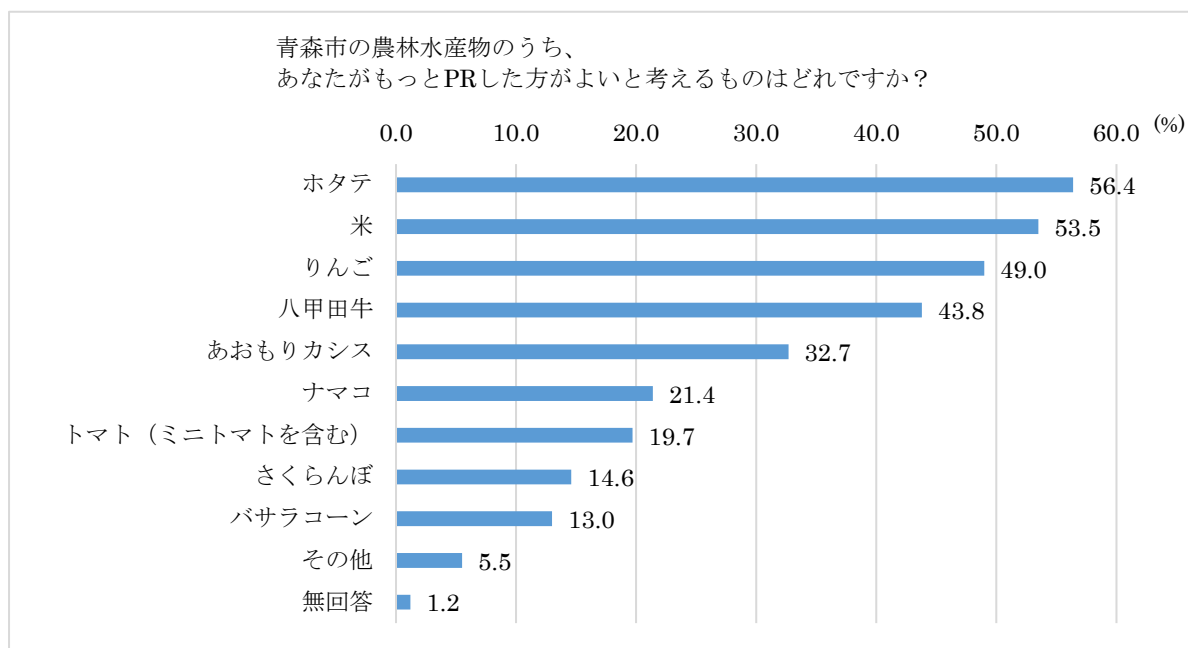


青森市の観光資源のうち、もっと活かした方が良いと考えるものについて、最も割合が高いのは、「自然・温泉」(74.2%)でした。以下、「食」(52.0%)、「ねぶた祭」(46.1%)、「観光施設」(31.4%)、「農業・漁業体験」(28.4%)と続いています。

(問) 青森市の農林水産物のうち、もっとPRした方が良いと考えるものはどれですか？

- (回答) ①ホタテ (56.4%)
②米 (53.5%)
③りんご (49.0%)
④八甲田牛 (43.8%)
⑤あおりカシス (32.7%)
⑥ナマコ (21.4%)
⑦トマト (19.7%)
(ミニトマトを含む)
⑧さくらんぼ (14.6%)
⑨バサラコーン (13.0%)
⑩その他 (5.5%)
⑪無回答 (1.2%)

※複数回答が可能な設問のため、比率算出の基数は回答者数(票数)とし、その項目を選んだ人が全体からみて何パーセントなのかという見方としているため、各項目の比率を合計しても100とはなりません。



青森市の農林水産物のうち、もっとPRした方が良いと考えるものについては、最も割合が高いのは「ホタテ」(56.4%)でした。以下、「米」(53.5%)、「りんご」(49.0%)、「八甲田牛」(43.8%)、「あおりカシス」(32.7%)と続いています。

(出典：令和6年度 青森市民意識調査結果報告書)

(4) 取組の方向性

地域の食が持つポテンシャルを地域の力に変えるため、浪岡フードバレイでは、優れた農水産物の生産振興、加工品・土産品・地域グルメの開発・高付加価値化、戦略的販路開拓・販売PRを三本柱として、地域ブランドの確立に取り組み、食を通じて、持続可能で活力ある地域経済の実現を目指します。

① 優れた農水産物の生産振興

本市の農水産物は、地域住民の食生活を支える礎であるとともに、観光・交流人口の拡大においても大きな役割を果たす貴重な地域資源です。安定した品質を維持しながら、生産体制を持続させるため、生産性と収益性の両面で成長できる環境づくりを進めます。

■ 主な取組

・ 浪岡フードバレイ推進事業

りんごやバサラコーンをはじめとする、浪岡地区の気候や風土を活かした農産物の生産者が安定した農業経営に取り組むことができるよう、浪岡フードバレイ推進協議会において産学金官が一体となった支援策を検討します。

・ 新規就農総合支援事業

国の事業を活用し、青年等就農計画の認定を受けた50歳未満の認定新規就農者に対し、就農直後の経営確立に資する資金を交付するほか、就農後の経営発展のために必要な機械・施設の導入等の取組を支援します。

・ 青森就農サポートセンター管理運営事業（連携）

農業従事者の減少と高齢化が進んでいる中、今後の地域の担い手となり得る新規就農者の確保・育成を図るため、東青管内市町村が連携し、新規就農の促進に向けた情報発信、東青地域内外からの就農相談、栽培指導、経営指導、農業研修等、各種支援の窓口として「あおもり就農サポートセンター」を設立し、新規就農者を支援します。

・ 青森市農業DX推進事業

生産農家の減少と高齢化や後継者・担い手不足が進むなか、次世代を担う若手農業者の育成・確保を図るため、スマート農業の普及に努めるほか、ソフト・ハード面で農業のデジタル化が加速していることから、スマート農業機器のみならず、経営や栽培診断などのデジタル化の導入や就農意欲の醸成を図ります。



- ・りんご生産後継者育成支援事業

地域に根付いた生産意欲の高いりんご生産後継者の育成を図るため、公益財団法人青森県りんご協会が行う、りんごの栽培・剪定技術などの研修の実施を支援します。

- ・特産果樹生産高度化施設整備支援事業

ぶどう、さくらんぼ、カシスの品質向上を図るため、簡易選果機の設備費、雨よけハウスの整備費、生産基盤の整備費を支援します。

- ・りんご・ぶどう等生産団体支援事業

りんご、ぶどう、さくらんぼ、カシスの栽培技術の向上などを目的とした栽培技術講習会を開催するほか、りんご生産拡大及びりんご生産者の栽培技術向上、良品質の果実生産に積極的に取り組んでいる団体を支援します。

- ・省力化栽培りんご園地環境整備事業

りんご生産者が行う、労働力不足や災害対策、環境問題など各々のりんご園地における課題解決へ向けた取組を支援します。



■期待される効果

- ・生産量・品質の安定化による販路拡大
- ・生産者の労働負担軽減と経営改善
- ・若手農業者の定着による地域農業の持続性確保

② 加工品・土産品・地域グルメの開発・高付加価値化

本市が誇る農水産物の魅力を最大限に引き出すため、市場ニーズや観光客の嗜好に応じた加工品・土産品の開発を進めます。また、市産食材を活用した地域グルメの創出や、既存商品のブラッシュアップにより、地域ブランド価値の向上と収益力強化を目指します。

■主な取組

・浪岡フードバレイ推進事業

大学などとの連携により、りんごやおもりカシスといった旬の食材を活かした加工食品・スイーツ・土産品など多様なカテゴリーでの商品開発のほか、発酵食品やご当地グルメメニューの開発・商品化を進め、浪岡地区の食資源の高付加価値化を図ります。

・特産品開発支援事業

市農林水産品を活用した特産品の開発・改良、販路開拓及び販路拡大のための事業を行う者に支援することにより、農林水産品の高付加価値化を図り、もって農林漁業者等の所得向上を図ります。

・あおもり産品ブランド価値向上推進事業

6次産業化に向けた取組を持続的に発展させ、かつ市農林水産資源である「あおもり産品」を活用し新たな付加価値を創出しようとする生産者や事業者等を支援することにより、農林水産物の高付加価値化を図り、もって農林水産業者等の所得向上を図ります。



■期待される効果

- ・観光消費・域内消費の増加
- ・農水産物の付加価値向上による生産者の所得向上
- ・ヒット商品の創出による地域ブランドの強化
- ・事業者間連携による新たな産業集積の形成

③ 戦略的販路開拓・販売 PR

開発した商品のブランド価値を維持・発信し、ターゲットとなる消費者層に効果的に届けるため、「道の駅なみおかアップルヒル」を拠点とした生産者の想いや地域資源の魅力を体験できる場づくりに加え、地域おこし協力隊とも連携しながら消費者目線に立った情報発信を行います。また、都市圏での販路拡大のため、SNS の活用やトップセールスなどによる販売 PR を実施するほか、EC モールなどオンライン市場への展開を推進します。

■主な取組

・浪岡フードバレイ推進事業

地区内の飲食店や企業などと連携し、フードフェスの開催などにより浪岡地区の「食」の魅力の発信と「食」による活性化を図ります。

・道の駅アップルヒル管理運営事業

「道の駅なみおかアップルヒル」での体験型イベントなど消費者が生産者と直接交流できる機会を創出し、商品のファンづくりにつなげることにより、地域ブランド農産物や開発商品の販売 PR を推進します。

・あおもり産品販売促進事業

あおもり販売促進協議会を支援し、市と関係団体が連携しながら、市農林水産物の地産地消をはじめとした販売促進策を進めます。

・地域資源活用支援事業

農林水産物の販売促進、観光誘客や地域経済の活性化を図るため、りんご箱1つから参加できる多様性に満ちたマルシェ「青森港 暮らしのマルシェ」の開催を支援します。

■期待される効果

- ・市外・都市圏での知名度向上
- ・オンライン販売の拡大による通年販売体制の構築
- ・リピーター獲得やファンコミュニティ形成
- ・地域全体としてのブランド力・発信力の向上



(5) 推進体制

構想の推進に当たっては、農業団体、商工業団体に加え、金融機関や大学などと市が連携を強化しながら、それぞれが担う役割を積極的に果たしていくことが求められています。

そのため市では、令和7年4月にこれら関係団体で組織する「浪岡フードバレイ推進協議会」を設立し、地域グルメの開発などを実施してまいりました。

今後においては、生産者や事業者の主体的な取組やネットワークを活用したビジネスマッチングなど関係者間の連携強化を中心とした取組など、構想で示した方向性に沿った幅広い情報共有を行うとともに、協議会においては食を通じた持続可能で活力ある地域経済の実現に向けて検討を行い、新たな取組が具体化した際には市及び関係機関がそれぞれの役割を果たしながら取り組んでまいります。

関係機関のそれぞれの役割

- ・市 : 構想全体の調整・補助金支援
- ・農業団体 : 生産者ネットワーク形成、品質管理
- ・商工業団体 : 地域経済の活性化に向けた企業同士の協力促進
- ・金融機関 : リスク管理や経営相談を通じた企業支援
- ・教育、研究機関 : 地元農産物の研究や商品開発、マーケティングの支援
- ・協議会 : 関係機関と連携し、地域の農業と経済の発展のための調整・支援

